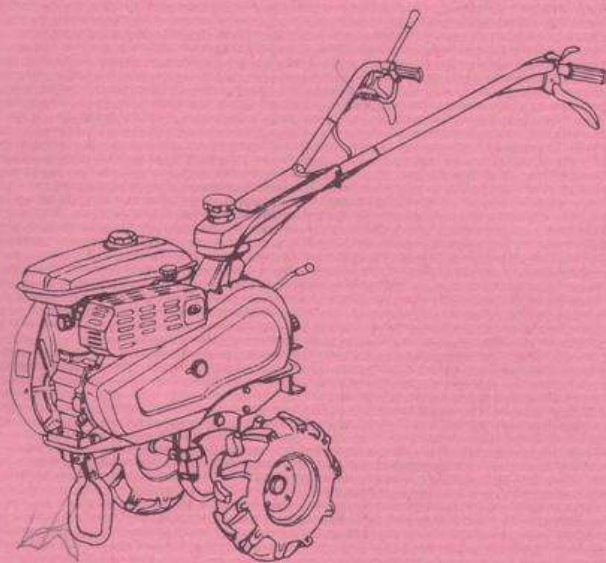


マメトラティラー

MC-400

ニユ-利根

★取扱説明書



マメトラ農機株式会社

1 特 長

(1) 快適なエンジン

ハウス内作業も快適に出来るよう、エンジン・騒音・排気等を考慮し、定評ある4サイクル電子エンジンを搭載しています。

(2) 多彩な車速

車速は、ロータリ作業からマルチ・ロータ・けん引とあらゆる作業に適した車速を備えています。

(3) コンパクトな機体

軽量・小形な機体に大形ロータがケース際まで取付けられる等管理作業での取扱いに、十分な考慮がはらわれています。

(4) リバシブルなハンドル

ハンドルは、各種作業に応じて、上下左右調節の他、ハンドル回動（180°旋回）が出来ます。

(5) 軽い旋回

サイドクラッチはマメトラ独特の特殊ポールスプライン方式を採用しているため、軽い操作力で旋回が出来ます。

(6) 完璧な安全設計

エンジンからの伝導ベルトは、もちろん動力取出軸も完全にカバーされ、安心して使用出来るよう考慮してあります。

2 仕様及び車軸回転数

(1) 仕様

項目	仕様	項目	仕様	
名称	ニュー利根	変速	ベルト変速 2段	
形式	MC-400	速ギヤ変速	前進2段後進1段	
全長	1450mm	主クラッチ	ベルトテンション	
全幅	640mm	操向クラッチ	ボールスプライン式	
全高	1050mm	標準タイヤ	350-5	
乾燥重量	58kg	車軸	31φ	
エンジン	名称形式	N25L	ホイールチューブ	40φ
	方式	空冷4サイクル	最大ローター径	400φ
	排気量	141CC	ハンドル形式	回動式 松葉ハンドル
	連続定格出力	2.5Ps/1800rpm	ハンドル	回動：菊座締付
	最大出力	3.5Ps/2000rpm	調節方式	上下：長穴締付
	燃料タンク容量	ガソリン 2.6ℓ	P T O 軸	17φインボリュート
始動方式	リコイルスターター			

(2) 車軸回転数 標準プーリー

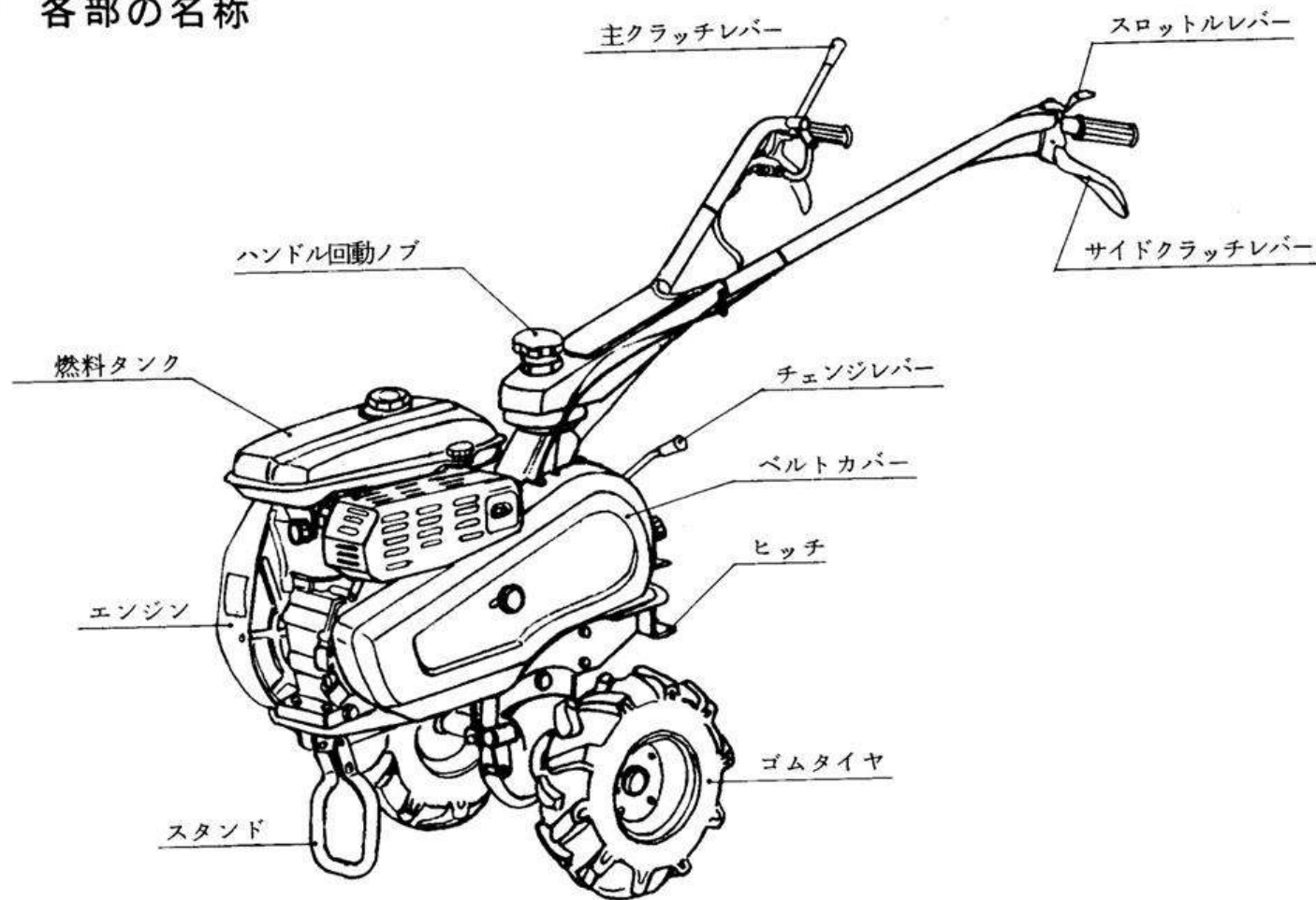
変速	ベルト低 800rpm		ベルト高 2000rpm	
	車軸rpm	K/H	車軸rpm	K/H
低速	31.5	1.83	78.7	4.57
高速	52.0	3.02	130.0	7.54
後速	22.5	1.30	56.2	3.26

ネギプーリー 629rpm (50φ/143φ)

変速	車軸rpm	K/H
低速	24.7	1.44
高速	40.9	2.37
後速	17.7	1.03

(注) 車速は350-5タイヤ(308φ)で算出

3 各部の名称



4 運転前の注意

耕耘機の性能を快適に保つためには日頃の点検、整備、調整が機械の寿命に大きく影響します。

次の点に御注意下さい。

1. 各部のボルト、ナット類のゆるみ、脱落の有無を点検して下さい。
なお10～20時間使用後に各部の増し締めを行って下さい。
2. 各注油箇所に指定の潤滑油が適正量入っているか点検して下さい。
輸送中の油洩れ防止のため油が入っていない場合があります。
3. チェンジレバー、クラッチレバー、アクセルレバー等が正しく作動するかを確かめてから運転を始めて下さい。
4. チェンジレバーは必ずクラッチレバーを切ってから操作して下さい。チェンジレバーが動きにくい場合は無理に押さないで、一度半クラッチにして少し回転させてからチェンジレバーを操作すると軽く動きます。レバーに無理な力を加えることは禁物です。
5. Vベルトは運転初期に多少伸びます。そのままですとスリップしますから2～3時間運転後に張り直して下さい。
6. 新しい機械は最初2～3時間は無理な運転を避けてナラシ運転をして下さい。
7. 運転時に異常音または異常な発熱はないか点検して下さい。

5 潤滑油

1. エンジン

別冊のエンジン取扱説明書を御覧下さい。

2. ミッションケース

SAE 90番の良質ギヤードイルを使用して下さい。

注油は右側面注油口から規定量 (1.35ℓ) 入れて下さい。

注油口より油面が見える程度が適当です。(5-1図)

油を抜く時は排油口より抜いて下さい。(5-2図)

[注意]

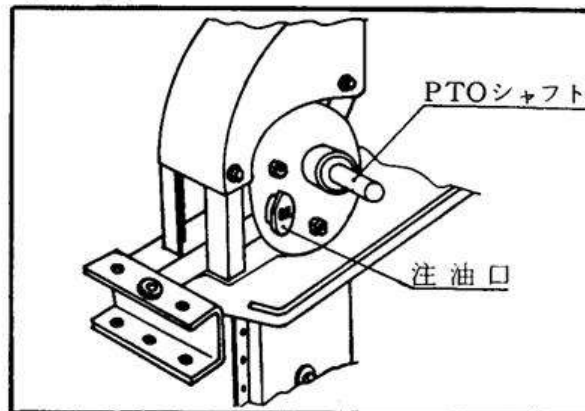
ミッションケースのオイルは最初の10~20時間使用したら一度交換して下さい。最初は初期摩耗がありますので早めに御願います。またその後は年1回か2回交換して下さい。長く使うと老化して油としての用をなくします。

3. 各摺動部

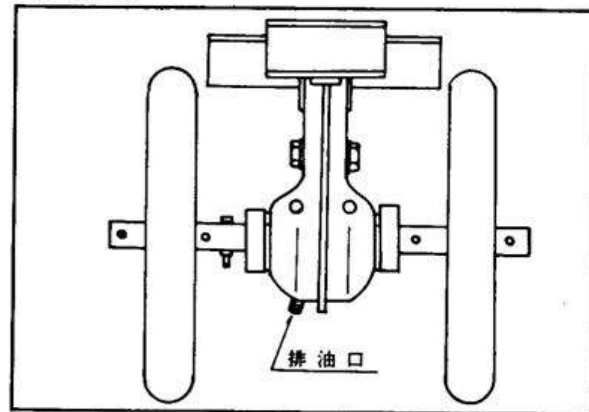
各摺動部にはギヤードイル、またはモーターオイルを適宜滴下して下さい。また車軸には必ず油をつけてホイールチューブを取り付けて下さい。

クラッチワイヤにも時々注油して下さい。

(5-1 図)

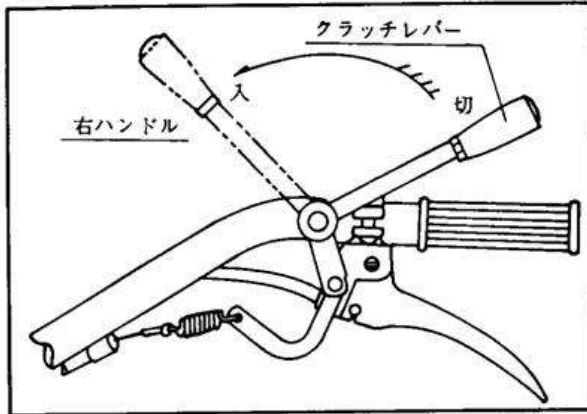


(5-2 図)



6 本機各部の構造と調整

(6-1図)



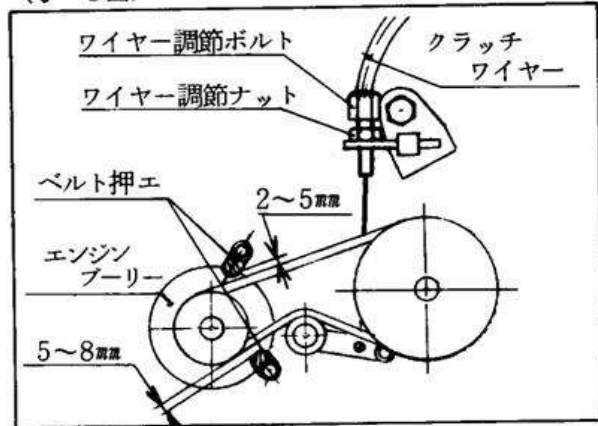
(1) 主クラッチ

ハンドル右側部のクラッチレバーを押すと、クラッチが入ります。(6-1図)

クラッチを切る場合にはクラッチレバーを手前に引きま
す。

クラッチはベルトの緊張によって行なわれますのでこの調整には特に気をつけて下さい。ベルトの張りが弱いとベルトが早く傷み動力の伝達効率が悪くなります。張りが強いとクラッチが切れず大変危険です。

(6-2図)



クラッチを入れてもベルトの張りが弱い場合には(6-2図)ワイヤー調節ナットを緩めワイヤー調節ボルトで調整します。それでも出来ない場合にはエンジンベットの4本のボルトを緩めエンジンを前方に移動させてベルトの張り具合を調整します。

ベルト押えはクラッチを切った時にベルトがプーリーの溝に浮いている様に調整して下さい。

ベルトを張った時にはベルトとベルト押えの隙間が上側 2～5 mm，下側 5～8 mm (6-2 図) になる様にして下さい。

(2) サイドクラッチ

サイドクラッチは車軸に装置されており，サイドクラッチレバー (6-3 図) はハンドルの握り部に取付けられて操作しやすく軽く切れるのが特徴です。

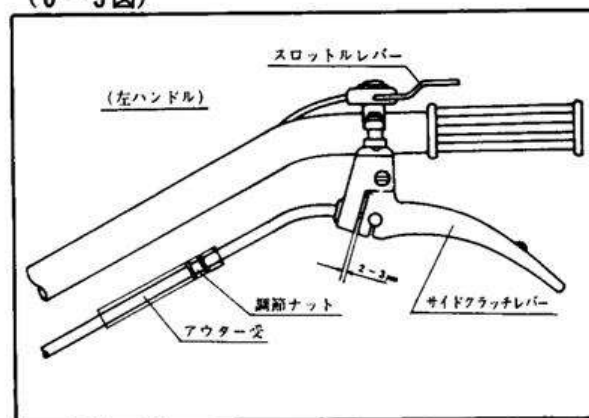
サイドクラッチレバーを握るとサイドクラッチは，切れ放すと入ります。

サイドクラッチの調整は調節ナットを緩めアウター受を廻す事により，アウターの長さを変えて行ないます。

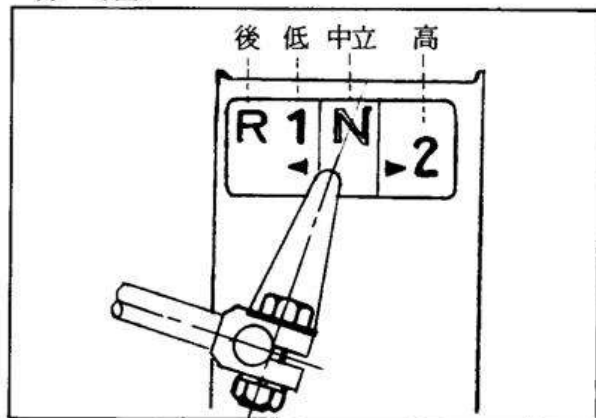
レバーつけ根の所で 2～3 mm 位の遊びがあるように調整して下さい。

調整が終わったら調節ナットを廻してアウター受けが動かないように締めて下さい。

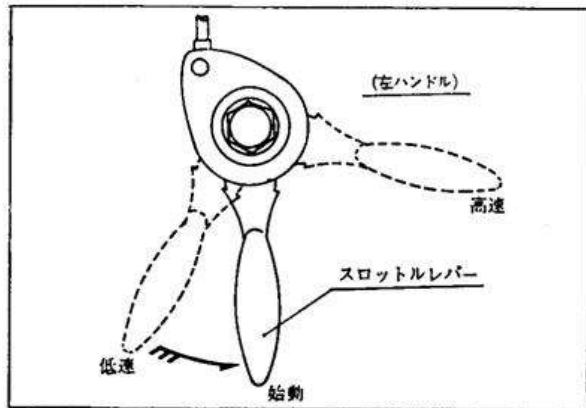
(6-3 図)



(6-4図)



(6-5図)



(3) 変速機構

変速レバー（チェンジレバー）はミッション後部についており、前進2段、後進1段の変速が出来ます。

チェンジレバーセット位置はN（＝中立）に合わせて下さい。（6-4図）

ベルトの掛替により更に変速が出来ます。ベルトとミッションの変速により前進4段、後段2段の変速が得られます。

変速レバー（チェンジレバー）の操作は必ず主クラッチを切ってからにして下さい。

(4) スロットルレバー

ハンドル左側握部に付いています。（6-5図）レバーを内側方向に廻すとエンジンの回転が上り馬力が出ます。外側に戻しますと回転は下ります。

又、始動時にはあらかじめ内側に開いてスタートして下さい。

(5) ハンドル

① 上下について (6-6図)

上下の調節はハンドルブラケット部のクラ
ンプレバーを廻して行います。

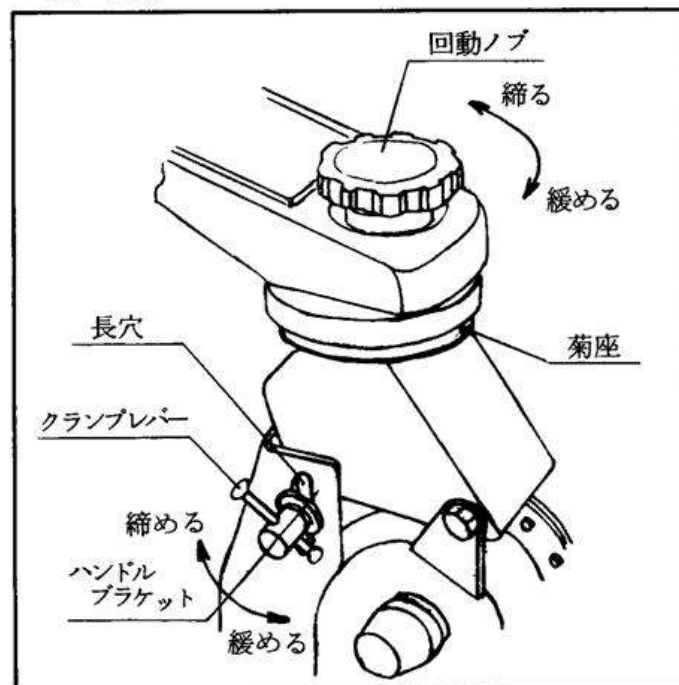
② 回転について (6-6図)

前後、左右の回転は、上部の回転ノブを廻
して行います。

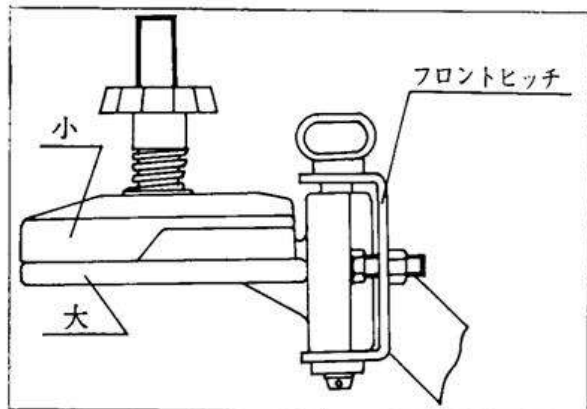
菊座締付方式ですので作業に合った位置で
固定できます。

注) ハンドル回転方向は必ずプーリー側に
廻し、ワイヤーを無理にねじらないよう気
をつけて下さい。

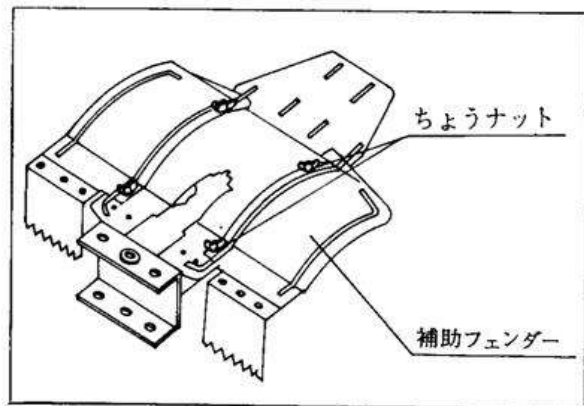
(6-6図)



(6-7 図)



(6-8 図)



(6) バランスウェイト・フロントヒッチ (特別注文品)

本機の前部に取付け、牽引力を強める働きをします。また本機と作業機とのバランスも取る役目もしますので、作業により取付けて下さい。(6-7 図)

(大 7.5 kg 小 6 kg)

(7) 補助フェンダー (特別注文品)

2本の蝶ナットにより簡単に着脱出来ます。(6-8 図)

7 基本農作業

(1) 耕起、耕耘作業

○耕耘ロータ各種を用途に応じて選び、ホイールチューブに取り付け、抵抗棒・培土板・ロータリ・犁などは、ヒッチ部に付け、ハンドルで抵抗棒その他作業機を押えながら前進します。ロータ径と抵抗棒・培土板・犁などの上下位置や前進速度で耕深が変わります。

(2) 中耕・除草作業

○中耕車輪・カルチ車輪・除草ロータ各種をホイールチューブに取り付け、中耕ロータリ・フロントロータリ・抵抗棒などをヒッチ部に取り付け、作業を行います。抵抗棒の場合は左右にわずかに振れがあるように取り付けます。

(3) 碎土・代掻・湿田作業

○碎土車輪とレーキ、水田車輪とレーキ、ロータ各種と抵抗棒などで行うのが普通で作業中の旋回の際は、何度も同じ個所を通らないようにするのが「こつ」です。

○代掻の前後には、田に泥土が点々と見える程度の水面状態にすることと、作業後にも泥水を捨てないことが「こつ」です。

○湿田作業の時は、特にエンジン機体を停止しないように、手元のスロットルレバーでエンジンの回転を調整しながら運転します。

(4) その他の作業

○マルチ作業各種・土盛り・土入れ・畝立て・溝掘り・その他の特殊作業が可能です。

8 安全作業のための心得

- (1) 過労・病気・薬物の影響・その他の理由で、
正常な運転操作ができないと思われる場合は機械作業に従事しないで下さい。
- (2) 適正な帽子や作業衣を使用し、衣服の一部や
頭髪・手拭等が巻き込まれないようにして下さい。
- (3) 作業前には常に正常な機能が発揮できるように各部の点検整備に心掛けて下さい。
また、作業後にも、次の作業のために点検整備

を実施して下さい。

- (4) 機械の点検調整や草の巻付の除去する作業等は、必ずエンジンを止めてから行なって下さい。
- (5) 作業機の着脱はできるだけ平坦な場所で行なって下さい。
- (6) エンジンを始動させる場合は必ずクラッチを切ってから行なって下さい。
- (7) 燃料を給油する場合はエンジンを停止し、火気は厳禁のこと。特にくわえタバコでの給油は絶対にやめて下さい。

(8) 作業中は作業関係者以外の者を機械に近寄らせないで下さい。特に子供には注意が必要です。

(9) 作業中は機械の周囲に注意し、安全を確認して下さい。

特にバック作業時には足元の注意が必要です。

また、バック発進時にはハンドルが取られやすいので静かに発進して下さい。

(10) ハウス内の作業や屋内での点検整備では排気ガスがたまり易いので換気には十分な配慮が必要です。

(11) エンジンのマフラーは非常に高温になりますので絶対に触れないで下さい。また、機械におおいをかける場合はマフラー等の高温部が完全に冷却した後で行なって下さい。

(12) 定置作業の場合等にベルトカバーをはずして作業機をセットする時は周囲に柵等を設け、手等がまちがって触れる恐れがないようにして下さい。